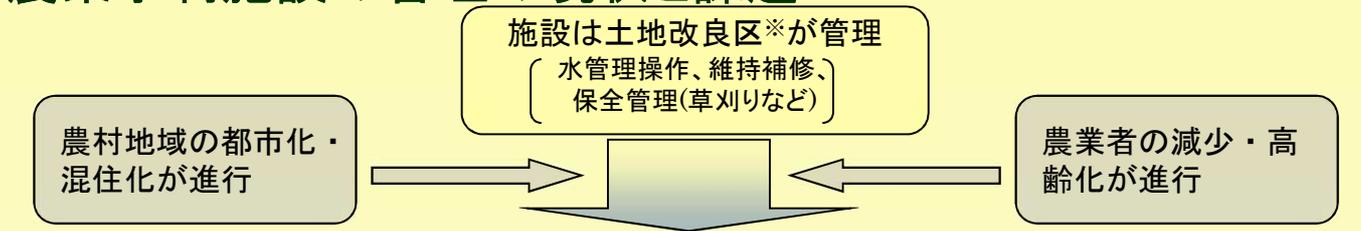


アドプト活動の概要

農業水利施設の管理の現状と課題



【課題】

- 農地転用等により、農業用水路への雨水の流入量が多くなり、洪水被害が頻発
- 生活雑排水の流入により、水質汚濁が進行。ゴミ投棄により、清掃作業量が増大
- 農家の減少・高齢化に加え、施設管理人の不足などにより、維持管理能力が低下
- 農地利用集積の進展に伴い、維持管理の負担が担い手農家に集中



ずいもん

大雨時の水門(ゲート)の開閉操作
(管理人が不足し、維持管理能力が低下)



このままでいいんだろうか



農業用水路でのゴミの除去作業
(都市化・混住化によりゴミの投棄が増加)

アドプト制度の仕組み

これらの課題を解消するとともに、農業水利施設が有する多面的な機能を維持・充実させるため、地域住民や企業、各種団体などと、施設管理者との間で「アドプト協定」を締結し、両者の協働による新たな地域づくりの展開を支援します。

～「アドプト協定」とは？～ アドプト: Adopt (養子縁組の意)

・ 起 源・・・1985年頃、米国のテキサス州交通局において、ハイウェイのゴミ清掃に市民グループや企業が参加した活動が始まりとされています。

・ 制度概要・・・道路や水路などの公共施設の一部区域・区間を「養子」とみなして、住民・団体・企業等が「里親」となり、「養子」となった施設の一部区域(区間)を責任持って保守管理していく制度です。

～「アドプト協定」の締結例～

